

【WP4】情報基盤センター及びNIIコンテンツ サービスのシングルサインオン検討

国立情報学研究所 開発・事業部
企画調整課

過去にあった共通利用番号制

- 7大型計算機センターの利用者は、同一のIDで他センター+NIIのデータベースサービスが利用可能。
- センター間で予算額の振り替えが可能。
(例えば東大の5万円のうち1万円を京大に振り替え、東大4万円・京大1万円に等)
- 他センターの利用申請は、オンライン(TSS)で可能。紙の申請は最初の1度のみ。
- これらを実現するため、IDの体系のルールを作成し、各センターはそれに基づきID発行及び初期パスワード作成を行っていた。(1986年度～)
- **しかし、運用に必要なコードの枯渇、利用者の減少等の理由から2003年度に廃止。**

シングルサインオンの必要性

- 情報基盤センターの計算機利用に関して、複数センターを利用する場合は、個別に利用申請が必要になった。
- 今後、グリッドの利用が本格化するにあたり、複数のセンターを同時に利用する場面が想定される。

情報基盤センター間の連携には、共通利用番号制に代わる新しい制度が必要となってくる。

- 電子ジャーナルは、ほとんどの場合IPアドレスを使用して機関認証を行っている。そのため、学外からは利用できない等の問題が生じている。逆に、来訪者が利用できてしまう場合もある。
- NIIのコンテンツサービスでも、サービス毎にIDが異なり、利用する方も管理する方も大変。

NIIのコンテンツサービスでは、これらの問題を解決したい

シングルサインオン実現のメリット

- 学内外から、各コンテンツサービスへのアクセスを、個人情報保護を行いながらセキュアに実現(認可)
- 複数の大学、機関のコンテンツに対して、横断検索を実現
- グリッドコンピュータの利用を容易に実現
- 無線LANローミング等のアプリケーションの実現



世界の動向

- 米国Internet2のShibbolethプロジェクトにおいて、認証・認可の研究が行われている
- Liberty Alliance ID-FF1.2の策定された
- 標準化団体(OASIS) Liberty Allianceの成果をもとにSAMLの標準化が進行中

海外機関との連携も視野にいれ、これらの動向にも注視。
(電子ジャーナルは海外の出版社が大半)

Shibboleth , Liberty Allianceの調査

- 電子ジャーナルの認証としてshibbolethを採用する出版社が出てきている。
- そのため、米国の大学図書館では、shibbolethがかなり普及してきている。
- 今年度、ShibbolethおよびLiberty Allianceの認可方式について仕様調査、機能調査、比較検討を実施。

今年度はコンテンツサービスのシングルサインオンに向けた、最適な認可方式の検討を実施する。